

「クロマツ林文化・創造ネットワーク」  
活動ご賛同へのお願い

「クロマツ林文化」創造ネットワーク  
代表 森 繁哉

庄内海岸の見事な景観を形づくっている通称「クロマツ林」は、「文化遺産」と言っていると思います。

もちろん、日本海から吹きつけてくる、猛烈な海風の影響で舞上がる飛砂から居住地や農地を守るために植林され、養生されてきた防風上の樹木ではあるのですが、それは、人々の意思の結晶として形を現してきた文化形態なのだと考えられます。

まず、ひとつは、この数キロに及びクロマツ林を植林し、維持管理してきた先人たちの思いや意志のなかに、風土を作ろうとした「土地人の決意」が宿っているということであり、庄内地方には、特に、その見事な庄内平野を例とするまでもなく、自然の脅威に立ち向かい、人々の居住を助けるためにあらゆる知恵と力を傾けて、その場所を作ってきた歴史があります。

「クロマツ林」も、その精神が実現した結果であり、その営為が結実した結晶そのものではないかと思われま。そして、それは、庄内人の誇りと名誉の具現化であって、庄内人の高い郷土愛の現れだと思えます。

もうひとつは、この庄内海岸は日本文化の源流を考える際の重要な「聖地」であるという史的事実であります。大陸文化流入の重要な北の拠点として、この海岸線は、神が移入する、極めて聖なる入り口として、南の大陸文化移入経路と対を為すように日本の歴史に登場してきます。

そのことは、「鳥海山信仰」と一対になりながら、日本の歴史書にも記述され、土地の人々の信仰を深く醸成してきました。一見、なんの歴史的建造物が観られないように思えるのですが、むしろ、先人たちは、ここに構築物を設置しないことで「原郷の、神の聖地」としての景観を守ってきたのです。

更に、「クロマツ林」は、これまで幾多の小説家、画家、詩人、歌人、映画人などの作家にも影響を与えてきました。その創作にインスピレーションを与え続ける一方、庄内地方が文化創造の源泉であることを内外に知らしめ、多くの人々を魅了する地として機能してきました。そうした現実が「文化の媒体地」と言われる所以です。そして、観光という地域産業にも、そのことは密接に結ばれています。

こうした「文化遺産」、そして、「文化景観」とも言われる「クロマツ林」の眼前に、今、巨大な「発電用・風車」の建設計画が浮上しています。原子力発電からの脱却を謳った行

政の対応であります、この風車建設によって「クロマツ林」が損傷してしまう懸念があります。

その懸念を憂う地元関係者や有識者の意見に耳を貸さず、行政は、建設計画の総合的判断を骨抜きにして計画を断行しようとしています。このことは、行政の思惑が先行する独断決定と思え、これまで土地を養ってきた人々の意思、配慮を真っ向から処断する、極めて粗雑な施策だと考えられます。

更に、行政が、望ましい形で、未来的な生活環境を計画的に整備するという行政価値の実現をも放棄することであり、そうした対応は、既成事実を執行する行政瑕疵を、再度、生んでしまう結果にもなりかねません。

自然エネルギーの推進が問題なのではなく、自然エネルギー推進の矜持と言われ世界の潮流でもある「環境・精神・社会」の三つのエコロジーの有機的な推進の実行を模索することなく政策を進めようとする「理念なき政策決定」が、文化環境や生活人の精神環境を破壊してしまうことが問題なのだと考えます。

ここで私たちは、次のことを訴えます。

- ① 私たちは「クロマツ林」が文化的遺産・装置であることを認識し、その保全のために、今、英知を結集しなければならないことを訴えます。
- ② そして、その「クロマツ林」に構造物が建設されることの危惧を訴え、この対策の徹底的な意見聴取と調査を要求し、その判断を理性的に遂行することを訴えます。
- ③ 「クロマツ林」が、単に庄内地方の地域に限定される自然景観ではなく、広く社会全体の財産であることを訴え、こうした活動が、内外の方々に広く波及していかなければならないことを訴えます。
- ④ 歴史において丹念に蓄積されてきた文化遺産は、単に構築物にとどまるばかりではなく、「クロマツ林」などの動植物、それに視覚化され得ない精神の形象物にも及ぶことを訴え、こうした無形の財産が文化の礎であることに配慮することを訴えます。

ここに、この「クロマツ林」を「クロマツ林文化」と位置づけ、多くの人々に、クロマツ林文化が歴史の基本単位であることを訴えます。そして、その文化を未来形の文化として、私たちは、子どもたちに伝える責務を負っていることを訴えます。

この活動へ内外からご賛同いただき、人々を魅了してやまない「庄内地方の文化」が持続的に発展していただくために行動を共にしていただきますことを、切にお願いいたします。